

| | |
|-------------|--|
| テーマ | 子ども達の主体性を引き出すアプローチを考える ～「多様な学び」を支える体育授業～ |
| 発表者 (所属) | 企画者：結城光紀（伊奈町立小針北小学校） 司会者：石田聡宏（上尾市立大石小学校） 話題提供者：結城光紀（伊奈町立小針北小学校） 石坂晋之介（上尾市立上平北小学校） 山下大晃（湯河原町立吉浜小学校） 北村尚人（小田原市立泉中学校） 指定討論者：阪本一英（奈良女子大学附属小学校） |

【発表概要】

《企画趣旨》

子ども達の「主体性」を、どう引き出していますか??

体育授業A 「みんなで開脚後転するよ！3つのポイントに気をつけてやろう！」
体育授業B 「今日のめあては何か？自分の力にあった技や場で上達しよう！」

よく目にする体育授業です。授業Aは、「全員が一律の学習目標に向かい、一律の学習方法」で運動に取り組んでいます。授業Bは、「一人一人が異なる学習目標と学習方法」で運動に取り組んでいます。

多様な子ども達の、「多様な学び」を支える体育授業にしたい。一人一人が夢中になって運動に向き合い、全員が笑顔であってほしい。

しかし、授業Aでは多様な子ども達が楽しさを感じることは難しく、授業Bでは多様な子ども達のそれぞれの学びを全て解決に向かわせることは困難です。

どうしたら、子ども達の生き生きとした学びが生まれるのか。

どうしたら、子ども達の「やってみたい！」の心に火がつくのか？

本シンポジウムでは、

環境調整の視点から「主体性」を引き出す教師のアプローチを深めます。

授業はどう設え、教師はどうあるべきか？授業実践から共通項を紡いでいきます。

《話題提供》

上尾市立上平北小学校 石坂晋之介

「主体性とは何か？なぜselectなのか？」

VUCA の時代と言われ、予測不可能な社会を幸せに生きるために、自ら目標を設定し、その目標（問題）を解決する能力を育成することが必要であると考えている。この自ら目標（問題）を見出し、解決していく能力や姿勢を「主体性」と捉える。

エドワード・L・デシラ 1)は「自律性を支援することの主要な特徴は、選択を与えることであり、それには、上の地位にいるものがもつ力を共有することが必要である。～中略～もっとも効果的に自律性の支援を行う管理職や教師は、部下や学生に（個人であろうと集団であろうと）意思決定をする役割を与えるのである。」と述べている。「Select 型環境調整」とは「ヒト・モノ・コト」という視点で、子どもたちに委ねる学習環境の自由度を調整するものである。教師が子どもたちに選択の権利を与えることで「子どもたちの主体性を引き出すアプローチ」となると考えている。しかし、対象である子どもたちは実に多様である。子どもたちが多様であるならば、学び方も多様となる。その多様な学び方をいかに保障して、子どもたちを笑顔にするのか。具体的な体育授業について、複数の領域をまたがって具体的な授業実践を紹介する。

参考文献

(1) エドワード・L・デシ,リチャード・フラスト (1999) : 人を伸ばす力,新曜社

「Select 型環境調整」

体育授業の「参加・わかる・できる」に向かい、
子ども自身が学習環境を選択・決定し、主体的に学んでいく姿を目指します。

ヒト:友だち・先生(補助・声かけ方)

モノ:教具 場

コト:学び(課題・めあて・解決方法) 教材(行い方・ルール・技)

《話題提供》

伊奈町立小針北小学校 結城光紀

「select型環境調整は、いままでの授業とどこが違うのか？」

器械運動領域・抱え込み跳び（跳び箱）

「今日は、〇〇ができるようになろう！」器械運動の授業でよく目にします。私は、個々人の体格や運動経験の差が大きい体育授業において、一律の達成基準を課

題とした授業を設えることに疑問を感じています。「できる」ことには価値があり、「できる」を目指すことによる学びのプロセスや動ける体づくりは子ども達に有益です。しかし、一律の達成基準は多様な子ども達の「前向きな心」を刈り取る結果になっていないでしょうか？「やってみたい！」「次、これできるようになりたい！」と、子ども達の主体性を引き出す工夫を行った実践を紹介します。

《話題提供》

湯河原町立吉浜小学校 山下大晃

「ルールを調整して、全員が楽しむことのできるゲームづくり」

ボール運動領域・キャッチバレー（ネット型）

バレーやバスケ、ハンドボール等、「ルールは教師が作って提示するもの」と思い込んでいませんか？よい学びを設えるためには、ねらいをもったゲームの準備は必要です。しかし、子ども達の「もう1試合やろう！」を引き出していくためには、ゆだねる部分を作ることも大切です。子ども達の「うまくいかない」部分を選択肢にし、自分たちに最適な環境をselectする。ボール運動領域における、主体的な学びの第一歩となる実践を紹介します。

《話題提供》

小田原市立泉中学校 北村尚人

「selectする場面、どこがいいの？」

器械運動領域（マット運動）

select型環境調整のアプローチの話をする、「どの場面でselectさせるのがいいの？」といった声を耳にします。体育授業では、ポイントや技、場や行い方など、選択肢になりうるものは様々あります。大切なポイントは、「子どもの学びの階層」と「教科の目的」です。中学校の教科担任をする中で見えてきた、クラスによって異なる「select場面」の実践を紹介しながら、selectする場面をどう決定していくかについて深めていきます。